

TEAM PLAYERS

工作部門の未来を担うチームの若手メンバーとその日々の活躍を紹介いたします。

私が紹介します!



パネル班を含む
長崎製造課の設備管理を担当する
大崎 花梨さん
(三菱重工航空エンジン係
長崎製造部 長崎製造課)



From Nagasaki

エナジードメイン

三菱重工航空エンジン(株) 製造総括部 長崎製造部 長崎製造課 部品係 パネル班

高まる民間航空機需要に対応

2020年に竣工し、2024年に拡張された長崎工場にて、航空機エンジンの重要部位である燃焼器を守るパネルを生産しています。性能向上や燃費改善を達成するため、航空機エンジンの燃焼温度は上昇傾向にあり、高い耐熱性と耐久性、そして軽量化が求められています。1枚のパネルには直径1mmにも満たない冷却穴を数百~数千個あけますが、その角度と形状がエンジンの品質を左右するため、緻密な作業が必要です。アフターコロナで航空需要が世界的に回復する中、同工場で生産するエンジン部品はさらなる需要増が見込まれます。今後も内製力とコスト競争力に磨きをかけ、増産に対応するとともに、安心・安全な航空輸送に貢献していきます。

ウチの自慢

効率性を追求して高稼働を目指す

レーザー加工の時間はパネルの大きさや冷却穴の数によって左右され、短ければ5分程度、長いと1時間半にも及びます。現在、10台のレーザー加工機がフル稼働していますが、加工残り時間をタイムリーに把握して作業を終えたパネルを瞬時に回収し、新たなパネルをセットしなければ、“空き時間”が発生してしまいます。パネル班では、改善活動の一環として、加工残り時間を見える化できるモニターを設置し、高稼働を目指しています。



仕事の相棒

高品質な燃焼器パネルをつくり出す精密レーザー加工!

冷却穴は燃焼器1セット当たり数万穴以上あるため、できるだけ高速の加工が要求されます。本機は三菱重工グループが自社開発した装置で、高速レーザー加工が可能です。また、穴の位置についても高い精度が求められるため、事前に3D計測器にてパネルの形状を正確に測定し、レーザー加工にフィードバックします。本機で製造される燃焼器パネルの高い品質により航空エンジンの安全性を確保しています。



改善活動

ウォータージェット加工機の導入により生産性を向上

これまで冷却穴の加工はレーザーのみでしたが、今年度よりウォータージェット加工機を導入し、高圧水での加工が可能となりました。レーザーと比較して熱の影響がないため、パネルの長寿命化につながり、お客様からも期待されている技術です。



左から、榎田 裕太さん、中田 眞太郎さん、三岳 祐貴さん、小田 竜之さん、浦野 孔希さん、山口 拓真さん



お仕事紹介

現在は6種類の燃焼器パネルを製造しています。まず、入荷した素材にコーティングを施します。レーザー加工の工程では、1枚当たり最大数千個の冷却穴をあける必要があり、精密な加工が必要になります。続いて、手仕上げで念入りにチェックするのはパネルの湾曲部分。最後のエアフロー工程では、空気が吹き出す装置にパネルをセットし、空気の流れや圧力比を検査します。班員一人ひとりが高品質なものづくりに挑戦している職場です。



メンバーより

偉大な先輩たちを超える存在になりたいです。



榎田 裕太さん

2008年入社。これまで造船の溶接やクレーン作業に従事するなど、さまざまな経験を積んできました。現在はパネル班でレーザー加工を担当しています。燃焼器パネルの生産は加工時間が決まっているため、作業スピードが重要になります。そのため、効率の良い作業や段取りを常に意識しています。趣味はブレイクダンスとボウリングで、運動神経には自信があります!

作業の質を高めるため、さらに技術や知識を身につけていきます!!



浦野 孔希さん

2010年入社。以前は船舶のプロペラやボイラーの生産などに携わっていました。安全性が求められる燃焼器パネルの生産では、各工程で細かい仕様が決められているので、注意深く取り組んでいます。今後は新たに導入されたウォータージェット加工に挑戦していきます。チーム内のあだ名はキャプテン。小学3年生からバレーボールを続けています。

